

【輸入艇】

Edge Water 318CC

アメリカンフィッシャー・センターコンソール艇が選ばれる

初めて購入した船は小型のアルミボート。それからヤマハPC-26、ビルフィッシャー 34、TIARA4300コンバーチブル+（セカンドボートとして日産サンキャット7.7）と乗り継いで来られたボートライフ30年のベテランオーナーが今回選んだ艇は、アメリカンフィッシャーの名で広く知られるセンターコンソール艇のエッジウォーター 318CCでありました。



クルーを集い、伊豆七島を主なエリアとしてピックゲームフィッシングを中心に様々なフィッシングにチャレンジしてきたALAMBIC号の名は、クルーのマナーの良さと艇のメンテナンスの良さでボート仲間の内でも有名。フィッシングの他にも港に寄港してその地に宿泊しながらロングクルーズを楽しまれたり、船上から花火を見ながらパーティをされたりとオーナーにとってボートは人生を楽しむために不可欠な物。30年の間に乗り継いで来られたボートの変遷の跡はご自身のライフスタイルの変化の軌跡とも重なります。オーナーご自身の趣向や環境の変化に伴いその時々々の要望に合った艇を乗り継いでこられたのです。そして海の楽しさを熟知されているオーナーがこれから共に遊ぶボートとして今回選ばれたのがこの艇という訳です。

スペック

全長：9.70m、全幅：3.10m
船体重量：2948kg
燃料容量：1136リットル
清水容量：113リットル
カタログスピード：54.8ノット
機装後のスピード：最高43.0ノット
（燃料・清水満タン、搭乗者2人）



選ばれた理由を聞いてみると

- ・クルーが揃わなくても少人数で運行できる艇であること。
- ・センターコンソールの船外機艇なのでメンテナンスが楽なこと。
- ・海の条件にもよるが、30ノット以上で走行できること。
- ・沈まない一体成型と深いV/HALはラフな外洋の環境に耐えること。
- ・切った波を横に蹴散らす構造なのでスプレーが掛かりにくいこと。

少し心配なことが

- ・センターコンソール艇であるため身体が風雨にどこまで耐えられるか。
- ・波に強く乗り心地もよさそうだが、スピードと圧力にどこまで身体が持つか。
- ・今までは快適なキッチンがあり飲食には何も不自由は無かったが、しかし？
- ・ボトムフィッシングも行ないたいアイテムの一つだがどの程度までできるか。
- ・デットスローのトロローリングにどこまでスピードが対応できるか。

チャレンジしたいことを聞いてみると

- ・チャンスがあれば三宅島周辺でカジキやキハダをライトタックルで狙いたい。
- ・アンカーを打つことにはなるが、ボトムフィッシングも楽しみたい。
- ・安全第一が条件だが、この船の持つスピードを生かして行動範囲を広げたい。
- ・この艇を沖縄宮古島に陸送して思いっきりフィッシングを楽しみたい。



オーナーのリクエストに応えての艤装の実際

メーカーのコンセプトを重視しようということで、艤装に関しては基本的にメーカーオプションを採用することで打ち合わせが行われました。Tトップ、運転シートステーション、エンクロージャー他をオーダー。しかし、その中でエンクロージャーだけは納得のいかない物であったため全てを日本で装備し直しました。



メーカーオプションのエンクロージャーはネイビー色の布地が使われていてビニールはハードコートされていない物。スターターグラスビニールとスタモイドシートですっきりと作り変え、汚れにくくクリアな視界を確保しました。



入荷時のセンターコンソールを写しています。布製のオーバーヘッドストレージもメーカーオプション。自動膨張の救命衣を入れる場所として便利に使っています。



採用したプロッター魚探はできるだけ画面が大きい物と言う要望でHONDEX HE-1501DGP-1.2Kw、その右下はVHF、右側はレーダー用としていますが必要か？です。



Tトップのアウトリガーのハリヤードラインが収納時に屋根に擦れてしまいます。オーナーのアイデアで屋根の端にステンレスでリード金具を作ることでスッキリと解決しました。



ハリヤードラインの船体側エンド位置はいつも悩まされるアイテムの一つ。場所は決まっていますがエンクロージャーが邪魔に？ベンチレータでブロックしてハドメを打ちました。



オーナーの「身体が風雨にどこまで耐えられるか」という心配への対応策として、エンクロージャーサイドエンドに風雨避けのビニールウイングを装備してみました。スピードを上げてても十分効果があり運転者をしっかりと保護できました。



ボトムフィッシングにもチャレンジしたがこの艇ではパラシュートアンカー又はアンカーリング。ボトムフィッシングに適切なアンカーをどこに収納するか？スピードに耐えられるようにラパークランプを使ってセットしています。



「スピードと圧力にどこまで身体が耐えられるか」が大きな問題だったのですが、この運転シートの衝撃吸収力の素晴らしさには驚きでした。そうなるこのシートに頼ることになりそうなので、シートベルト取り付けの要望がありました。



標準で付いてきた両舷に位置するロッド収納庫。リールを付けたまま30ポンドを収納したいということでチャレンジしたところ、ロッドハンガーの取付けを工夫することで30ポンド2セットを収納することができました。



センターコンソール艇にシーズンオフには乗らない人の場合は全体をカバーする方法もあるのですが、「冬も乗るよ」の一言で、それなら簡単に扱うことができるようにと、コンソールと運転シートステーションに分けてカバーをしています。



基本的な艤装が終了して最終的に11月にマイバースに係留されました。本格的なシーズンは4月ぐらいからでしょうが、冬の海でもボトムフィッシングで楽しみたいと話されています。これから付け加えられていく艤装も楽しみです。